



私の彼氏は
女になる

私は研究者です！
昔から実験が大好きで将来は研究者になることが夢でした！
そして、現在、私はその夢を叶えてる途中です！



自分の部屋を改造して小さいですが、研究室を作ってしまった！
私はここで日夜、いろんな実験をしているのです！
「うん！うん！」
「いい反応だ。これを…」
「これと混ぜて…」と



「おお！なんか面白い反応になったぞ……？」
「早速試してみるか！」
「うまくいけばマウスが若返るはずだ……」



若返るはずだった
でも、結果は違った

【性別が変わった】


それが実験の結果だった

これはまたおもしろいモノができた！



その薬を元に解毒剤も作った
そして、実験は成功！
当初の目的である【若返りの薬】はできなかつたが
【性転換薬】は完璧なものが完成した！





そして、数日後
とあるハプニングが起きる。
私の彼氏がその薬【性転換薬】を飲んでしまう。

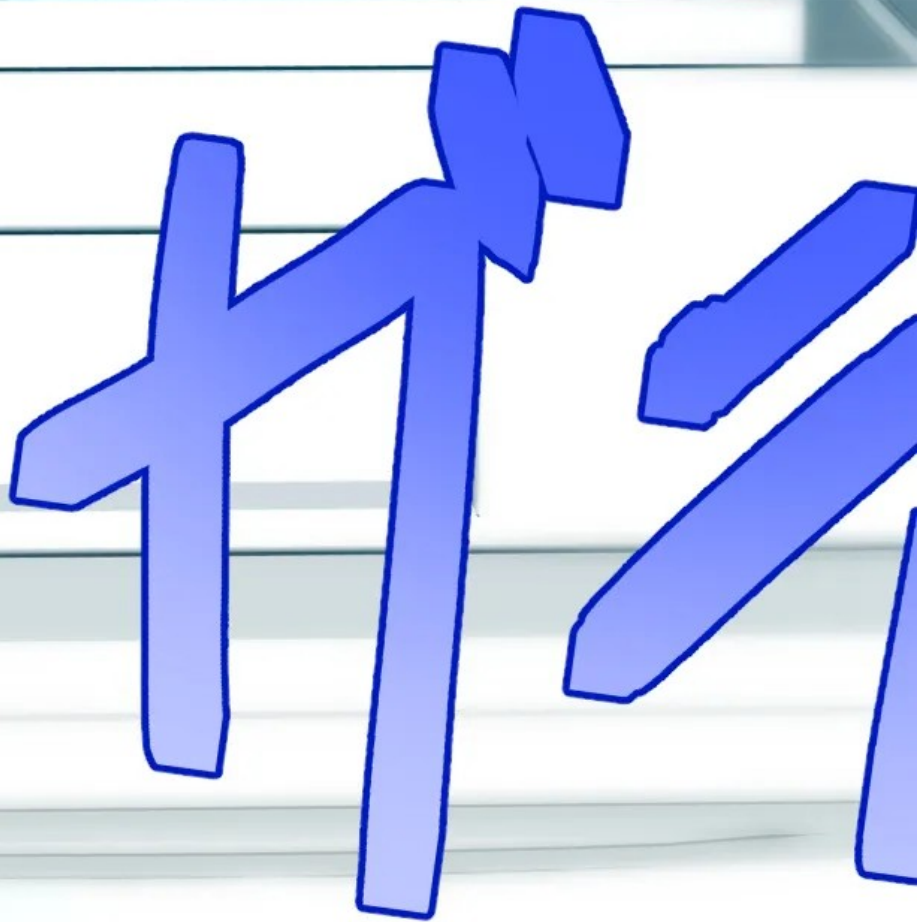
「はあ喉乾いた……」

「なんか飲み物ないかな……」

「お？ジュースあるじゃん！」

「あいつのかな？ちよつともらうか！」

「一応、連絡だけしておいて、夕方にでも新しいの買ってあげればいいだろ」



「ほ〜喉乾いた〜」
「いただきます!」



づく
づく



「うーん、変な味だな？」
「でも、嫌いな感じはしない」
「むしろ結構好きかもな！」



ぐびぐび...

「いや〜さっぱりした〜」

「お？帰ってたのか」

「おい...服くらい着ろよ」

「...ん？何飲んでるん？」



ガッガッ



「お？ああ、わりい、喉乾いてて、お前のジュースもらっちゃったわ」
「後で新しいの買ってくるから許してくれ」

「それにしてもこれ不思議な味だな？」

「どこで売ってたんだ？」

「あつ・・・それ？」

「ん？」



キミ

000

「え？」

「性転換薬…結構はやく影響が出るんだね…」

「なるほど…これは知らなかった」

「は？性転換薬！？」

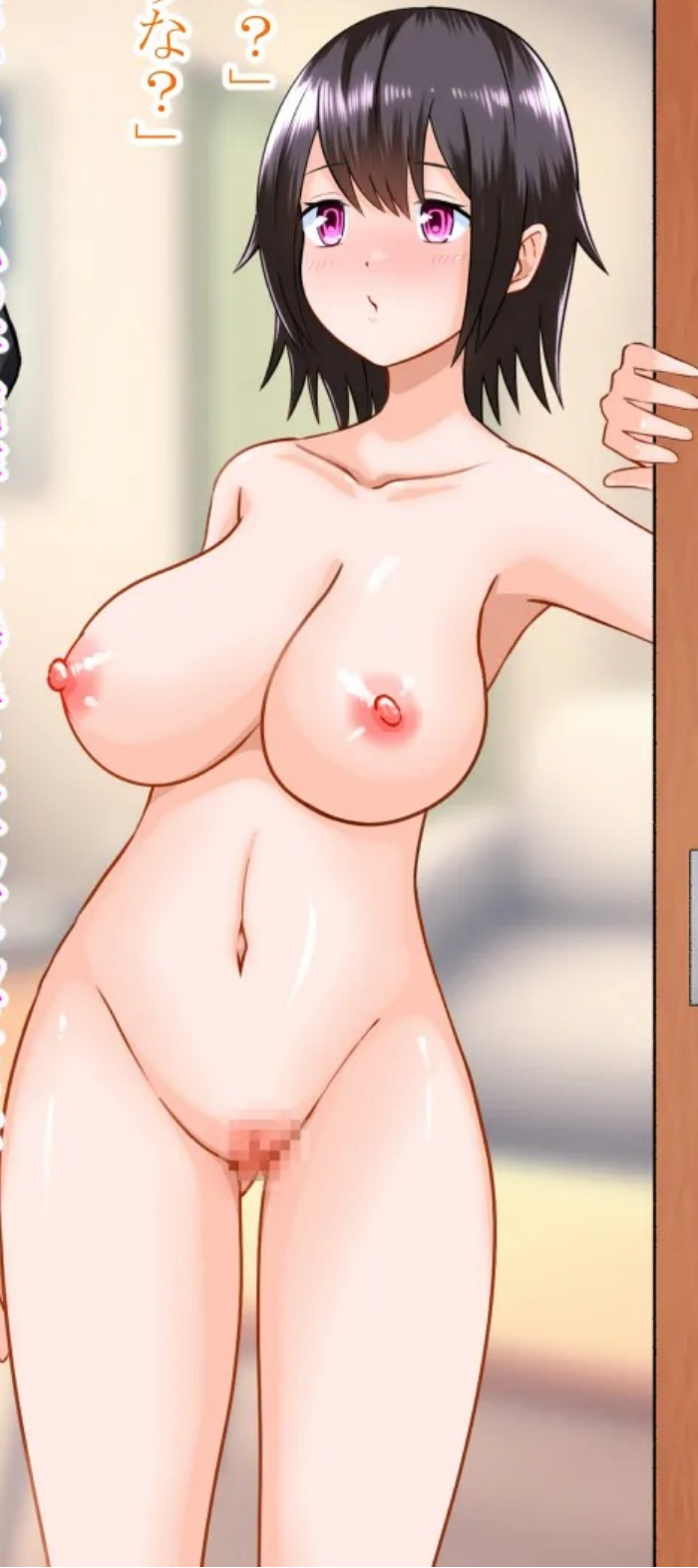
「なんだそれ！？」



確かに解毒薬はある・・・が、こいつ私の研究作品を勝手に飲んだんだよな？
私も紛らわしいモノを置いていたが、仮にも私のを勝手に飲んだやつだよな・・・

「・・・」

「また変なの作ったのか!?!」
「これ、戻せんるんだろぅな?」



よし、黙っておこう。

「いや…それがまだ完成してなくて…」

「もう少し時間があれば…完成できるはず…」

「は？まだしかよ…」

「しかし、今回は君が私の勝手に飲んだのがいけないじゃ…」





「そ、それは……」

反省しろ……」

「早く完成できるように努力するが……」

「もうすこし研究資料が必要で……」

資料は十分あるが……」

「研究に協力してほしい！」

人間のデータもあれば嬉しい



「わ、わかったよ……」

「協力するから……なる早で頼むな……」

意外と素直だな

だが、謝罪がないな……？

ま、いい……しばらく遊んでやるか……

「ただいま〜」

「いい子にしてたの?」



「おかえり…なさい…」

「あの…薬は…?」

「またかい? 朝も言ったけどまだだよ」

「そっか…」

ガチャ



「早くお願いな……」

「わかってるよ」

「そんなに急かさなくても順調に進んでるから」

「完成したらすぐに報告するよ」

もうすこしだけ

実験に付き合ってもらおうよ



「それじゃ……今日も新薬のために」

「協力してね？」

「お、おう……」

「わかったよ……」





「順調に行けばあとどれくらいで完成しちゃうの？」
「うーん。そうだな」
どのくらいって言おうかな？
未定は…ちよつとかわいそう？



「大体、一週間から半月くらいかな？」
「そっか……」



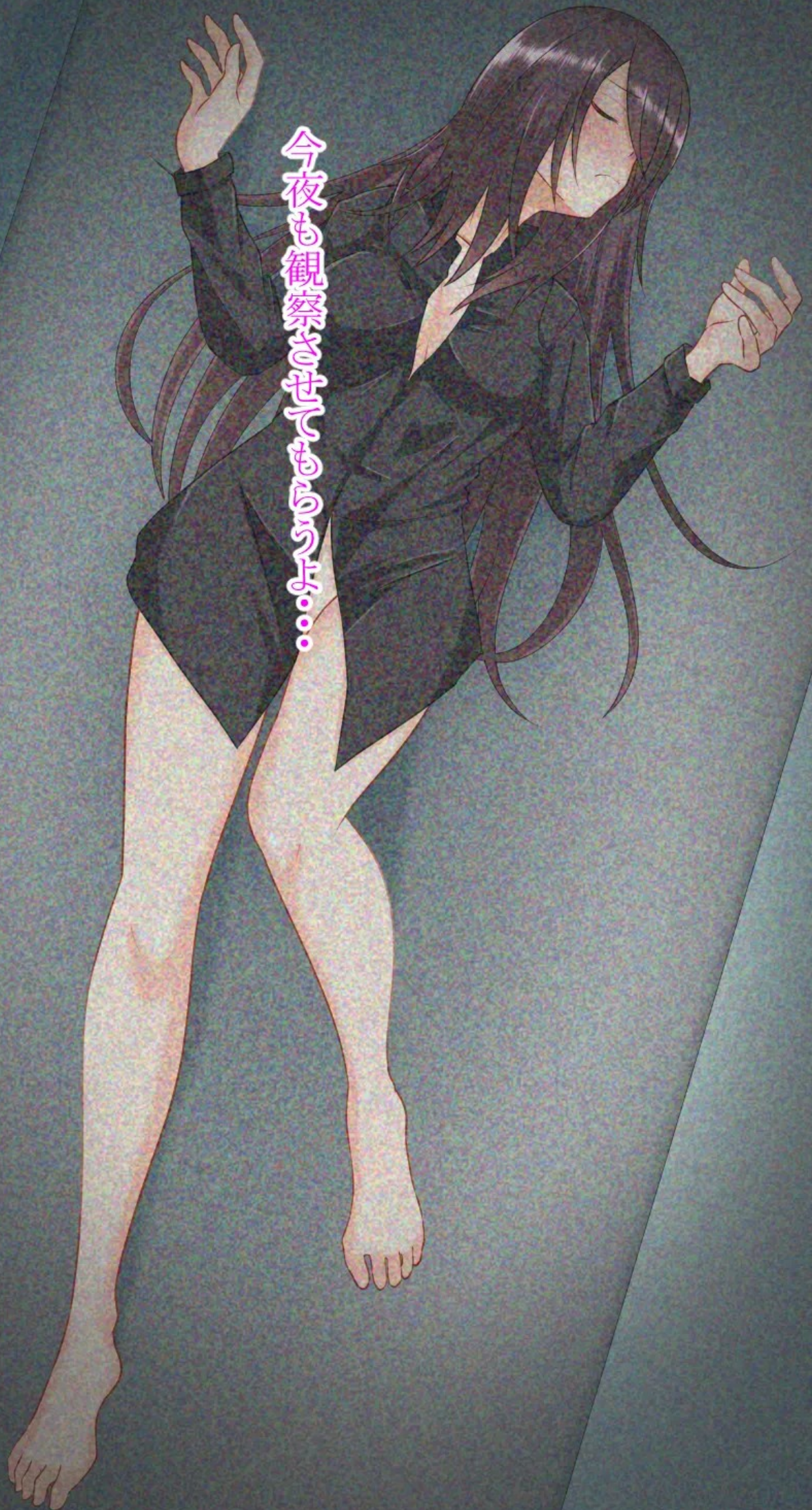


「早く完成するために、今日はこれを飲んでもらおうね」
「これはどんな薬？」
「ちよつとしたビタミン剤だと思ってくれ」
「実験には健康な身体が必要だからね！」





ちよつとした興奮薬なんだけどね
どんな反応するか今夜楽しませてもらうよ♡
「飲んだら今日はもう安静にして寝てくれ」
「ああ・・・わかった」
さて、楽しみだな・・・



今夜も観察させてもらおうよ...

「はあ……」

俺……いつ戻れるんだろ……

あいつの事だから完成しないってこととは無いと思うけど

早く完成しないかな……





でもあの時、俺があれを飲まなければこんなことにはならなかったんだよな
あいつに謝らないとな……

「はぁ……」

それにしてもなんだか暑いな……

部屋の温度か……？



「はぁ……はぁ……」

なんか……変な気分になってきた……

そういえば最近に抜いてないな……

女の身体になってそれどころじゃなくなってた

ドキ

「んっ…あっ…」
濡れてる…
俺…こんなだ…

♡ ちゅ♡





お？ようやくそういう気分になってきたか
君はどんな感じにするのかな？
「楽しみ♡」



「あらら♡」

「そんなに開いちゃって♡」

「大胆だな♡」

すげ……音がこんなになに……
どんどん濡れてく……
気持ちいい……気持ちいい……
男の時より気持ちいい……
「あつ……はあ……」





「ああ……あつ……」
「はあ……はあ……」
「やばい……」
どうしよう……イキそう……
俺……この身体で……



すい♡

もうイキそうかな？♡

人のオ●ニ見るの楽しい♡

「ぶぶ♡ちゃんと保存しておかない♡」



気持ちいい……

気持ちいい……気持ちいい……

イク……イクイク……

もう……無理……

いきたい……いつちやう……!!



「はあああああ！」

「あああああああ！」

やばい……これ……やばい……！



「あら♡いつちやつたみたい♡」
「ふふ♡」



「はあ……はあ……」

暑い……

女の身体……やばい……かも……



さてと……

だいぶ、身体に順応してきたな……

もう少しデータがほしいけど……

次は何をしようか……？



「おはよう」

「あれ？裸？どうしたの？」

「え？ああ……えつと……」

「ちよつと暑くてさ……」

「そう……暑かったか……♡」

「今日は冷房をつけておくよ」

「あ、ああ……」

「お願い……」

まあ……知ってるんだけどね

昨日、裸でオ●ニーしてたの♡

あの映像見せたらどんな反応するかな？





「あのさ……」
「うん？」
「実はこの部屋に……」
「カメラ付いてるって言ったたらどうする？♡」
「え？」



「ミヤコ♡」

「嘘…」

「昨日の夜の行動…」
「実は知ってたりして…♡」





「嘘だろ!?!」

「どうだと思っ?♡」

「ちゃんと録画もしてるよ♡って言ったら♡」

「君は信じるかな?」



「頼む！消してくれ！」

「なんでも言うこと聞くし！」

「あの薬も勝手に飲んで悪かったって思ってる！」

「お願いだよ！消してくれ！」

焦ってる焦ってる♡

おもしろ♡

「ふふ♡どうしようかな……♡」



「お願い……」
「お願いだから……」
「お……」

あれ……？なんか……

こんなに可愛かった？

あれ？なんだろう……この感じ

「はぁ……」

「おい……聞いてるのか？」

どうしよう……





もつとこの表情がみたい……♡
虐めたいかも……♡



「それじゃ……」

「言ってる聞いてもらおうかな?♡」

「え?」

「はあ……はあ……♡」



「あっ！おい！」

「消してあげるから……」

「君の身体、隅々まで調べさせてもらおうね♡」

ああ♡なんかいい感じ♡



「はあ？何言つて……」

「教えてあげよつか？♡」

「せつかくだから、女の子の身体……」

「結構、いい身体じゃん♡」



ント

ハッ

グイ

ムニ

グニ

グニ

「こんなに乳首、勃たせて・・・」

「本当は気持ちいいことしたいんでしょ？♡」

「私たち・・・恋人でもあるんだから・・・」

「そういうこと・・・してもいいんだよ？♡」



「ほら…エッチしたいんですよ?」

「こんなに身体ほてらせてるんだし…」

「それになんでも言うこと聞くんじゃあ?」

「じゃあ、聞いてもらわないと…」

「君の反応がもつと知りたいから♡」



「すっごく柔らかい身体♡」
「もつと堪能したいな♡」
「君ももつと女の子の身体で気持ちよくなりたいでしょ?」
「そ、それは・・・」
「いいよ・・・気持ちよくしてあげる♡」

アッ

「あっ」

「ムム…」

「気持ちよかったんでしょ?♡」

「あんなに手一生懸命に動かしてさ♡」

「全部見てるんだから♡」





「はあ…はあっ」

「ほら…ほら♡」

「我慢しないで、昨日みたいに感じてみて♡」

「ああ…可愛い♡」

「どうしよう私も暑くなってきた♡」

ムキ

ムキ

ムキ...

ムキ

ムキ

ムキ

「脚…あげて♡」

「はあ…恥ずかしい…」

「あはは♡もうすごい濡れてる♡」

「おま●「気持ちいい?♡」

「私の手…いい?♡」





「私は……君とエッチしてる時……」

「すっごく気持ちいいよ？♡」

「君が……私に触ってくるのが……」

「すっごく気持ちいい♡」

「だから……今日は私が君をもっと気持ちよくしてあげる♡」

「ふふ♡どんどん濡れてくるね♡」

「聞こえる？すごくエッチな音♡」

「はぁ…あつ…んっ」

「かわいい声も聞かせて♡」

「触ってるだけなのに…手…」

「すごく気持ちいい♡」

「なかなか、他のおま●こ触ることなんてなかったからな…」





「ま、待つて…。」

「うん？」

「い、イク…いつちやう…。」

「あら♡そうなの？」

「いいよ♡いつて♡」

「だ、だめ…。」

ああキュツとしてる♡

「んんんっ! ああっ!」
「はあ♡」
熱い♡すい♡♡



「よーっほ♡」

「はあ……はあ……」

「ちよつと何して……」

「ん？ちやんと(に)綺麗にしないで(よ)っほ？」

「え……？」





「はあうっ！」

「んん♡」

「ま、まっつて……!!」

「綺麗にするからね……♡」

おま●この味……♡

クッ

パッ♡

ドク

ハク

♡

♡♡



「い、いったばっかだから……」
「び、敏感に……」

「はあ♡ああ♡」
「だめだつて……んっ！」

「だめじゃないよ……♡」



「おかしく…なる…」

「いいおかしくなって…♡」

「その方が楽しいし♡」

「はあ…あつ」

美味しい…おま●こ美味しい♡

「やばっ…また…」

「おかしいな…舐めとつても」

「どんどん溢れてくる♡どうして♡♡」

「もしかして…感じてる？」

「私の舌…気持ちいい♡」

「だめ…またイっちゃう…」





「んんっ! あはあ……!!」

「あっ♡」

こんなに吹いちやつて♡

どうしようもなく……

かわいいな♡



「はあ……はあ……」

「もう……だめ……」

「ふふ♡今日はのんびりしてようかな♡」

「いっ」

「いっ」

びびっ

「ちよつとやりすぎたかな？」

「変な気分になっちゃって止まらなかつたな」

「ごめんね？♡」

「でも研究に使えるようなデータは取れたから♡」

「ほ、本当……？」

「うん♡」



「たくさん汗かいたでしょ？」

「シャワーでも浴びておいで」

「私は薬の開発に戻るから」

「あ、ああ……」

「よろしくな……」

「うん♡任せて♡」



「びっくりしたな……」

まさかあんなこと……

まだドキドキしてる……

どうしよう……俺、このままでも……

ん

ニ
キ

ん
キ




そういえば…
ちやんと映像消してくれるよな…？



映像はきちんとハードディスクにと……♡

これでいつでも楽しめる♡

この映像ももちろん保存と♡



いろんな場所にカメラを設置！
部屋、風呂場、トイレまで隅々と！
これでデータも取り放題！
研究のためと女性物の下着をつけさせてる！
中々の絶景だな♡



ここまでする必要あるのか？

それになんでトイレは和式なんだよ…

落ち着かない…

「ふう…」
「だいぶ疲れたな…」
「データも結構集まった」
「これでしばらくは…」



あの時の表情・・・
すごくよかったな・・・
もし、あのまま続けてたら・・・
どうなってたんだろ・・・？
ちよつともったいなかったかな・・・



「はぁ...」
「ん...」

ドキ

ドキ

キュン

ドキ

ドキ

ドキ



湿ってきた…
やばっ…どうしよう…
またしたくなってきた…
「はぁ…はぁ…」

ハア

ハア

トクッ

ハア

ハア



「んん…」

全然寝れそうにない…



また思い出してしまおう…
すぐく気持ちよかったな…
あんなに気持ちよかったの…
いつぶりだろう…
またしたいな…

ドキ

ドキ

ドキ



「はぁ…んっ…」

思い出したらまた熱くなってきた…

やっぱりこの身体になってから

おかしくなってるのかな…？



グワッ

んっ

んっ

んっ

やっぱり……もう湿ってる……

想像しただけで……

どうしよう……またみられてるのかな？

だとしたら、やっぱりやり辛い……

でも……



ちよつとだけ……

ぐれない程度に……

「んっ……あつ……」

パンツ脱ぐと涼しい……

ムッ

ムッ

んん

もわ……

バクン



「あつ……はあ……」

「んんっ……んんっ」

声を出さないように……

静かに……



「あつ……」

気持ちいい……

この身体でするの……

すごく気持ちいい……





あれ……？

もしかして……

累も同じ気持ち……？

それなら……いいよね？

我慢しなくても……♡



「累！」
「わっ！え！」



「あつ……」

「こ、これは違くて!」

「その熱くてさ!」

「大丈夫……はあ……はあ……」

「え……?」

毛…

毛…

!

!

!

!



「え！ちよつと・・・」

「わかつてるから・・・♡」

「私たち・・・今同じ気持ちだろうから・・・♡」

「はあ・・・はあ・・・♡」

「それって・・・♡」

キエロ

トクーン



「一緒に気持ちよくなろう……♡」

「えっ……」

「エッチ……しちゃおっけ……♡」

トクン

キキ

キキ



ムム

「ぶぶ♡もいっ♡んをだ♡♡♡♡♡」

「あっ…ちよつと…」

「今日はお互い…」

「たくさん気持ちよくなるうね…♡♡♡♡♡」



ムム…♡



ハア

♡

♡

♡

「声出していいからね♡」

「…うん」

「すぐくヌルヌルしてて…」

「指…気持ちいい♡」

「はあ…あつ…」

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡



「中に入れるね……♡」

「んっ……あつ……」

「中……すごい温かい……」

「はあ……あつあつ……」

「どんどん入ってく……♡」

トッ
♡
トッ
♡

Multiple instances of stylized red sound effects and symbols, including hearts and vertical bars, scattered across the lower half of the page.



「エッチな音……♡」

「大きくなってきたね♡」

「私……すごく興奮してきた♡」

「あっ……だ、だめ……」

「だめ？何が……？♡」

「い、イクっ……」



「ダメメ♡」

「二人で先にイかないで♡」

「今日は一緒にイきたいから♡」

「はあ…はあ…」

「ふふ♡すごく身体熱いよ♡」

ハッ

ハッ

トロッ

クワッ

キュッ

キュッ

「んっ……ああ♡」

「貝合わせ……♡」

「二度してみたかったんだ♡」

「でも、まさか君とできるなんて……♡」

「はあ♡」



「私もすごく濡れてるわかる?♡」

「君と・・・累とエッチなことするの想像して」

「こんなに濡れたんだよ?♡」

「あつ・・・んんっ♡」

「はあ♡はあ♡」

「動かしてみるよ♡」





「んんっ…ああ♡」

「あっ!んっ!」

「これ…いいかも♡」

「擦れる感じが最高に気持ちいい♡」

「累の…体温が…」

「お股から全身に伝わってくる♡」

「はあ♡はあ♡」

んんっ

んんっ

んんっ

んんっ

んんっ

んんっ



「はあ♡あつ♡」

「気持ちよくて腰どんどん早くなっちゃう♡」

「くちゅくちゅって音もやばい♡」

「あつ…はあ…」

「気持ちいいね♡累…♡」



「み、未来……」

「もう……いつちやう……!」

「はあ♡はあ♡」

「もういつちやうの?♡」

「はあ♡もう少し頑張つて……♡」

「だめ……もう……」



「んんっ！」

「あああ♡」

「累の…愛液が私の中に…♡」

「熱い♡熱いよ♡」

「これやばい♡」



「はあ……はあ……」

「累……♡」

「すごく気持ちいい♡」

「私……もつとしたい♡」

「……うん」

「ふふ♡」

「キスしよ……♡」

バク
ク
ー

ア
ア
ア
ア

ア
ア
ア

ア
ア
ア

♡
♡

名✓

「んんっ…♡」

「はぁ♡んんっ…♡」

ポーとしちやう…

累とのエッチ…最高すぎ♡

しゅっ

んっ

んっ

んっ





トク

ム

ク

ち

「い」…痛くない？」

「大丈夫…気持ちいいから…」

「ふふ♡よかった♡」

「もつと舌…絡めよ♡」

「うん…♡」

ハ



「んんん…♡」

「あっ♡はあ♡」

An anime-style illustration of two young women with dark hair embracing and kissing. The woman on the left has short, dark hair and is wearing a dark blue top. The woman on the right has long, dark hair and is wearing a blue top. They are both blushing and have their eyes closed. The woman on the right is holding the woman on the left's breast. The background is a solid light blue color.

そろそろ身体…
元に戻してあげないとか…
でも、この身体でするエッチ良かったな…
累…またこの身体でしてくれるかな…？



「はあ♡」

「疲れたね♡」

「…うん」

「でも気持ちよかったよ」

「よかった♡」

「女の子の身体もいいもんでしょ？」

「……うん」

「そうだね……」

「悪くないかも……」

「あのさ……」

「うん？」





「身体がもし自由に変われるようになったら……」

「また女の子同士でもエッチしてくれる？」

「え？」

「あつ……別に男の時が気持ちよくなないとかじゃないよ？」

「あれはあれで……すごくいいから……♡」



「その・・・気分転換とか・・・」

「その都度の気分に合わせて・・・」

「だめ？」

「未来が望むならいいよ・・・」

「それに・・・俺も新しい感じで気持ちよかったから」

「でも、そんな都合よくできるの？」

「私は天才だよ?」
「それくらいで済むよ♡」



その後、累に解毒薬を渡し
私はまた新しい薬の研究を始めた
安定して性転換が可能な薬を完成させるため
彼は何度も私の試作品のテストとなるのだが
彼は私のためならなんでもするとの事だった。



読んで頂きたいものがたくさんあります！

次のページから読んでください！

56~59





















































































